

【テーマ5】 団体名 大阪教育大学

「一般の教員の研修のあり方に関する調査研究」

調査の概要

◆課題認識

- ・教職員の時間外勤務が増加している
- ・小学校においては時間外勤務軽減の手立てが見えにくい

◆調査研究の目的

- ・小学校の勤務状況を明らかにする
- ・業務内容と業務スタイルの改善を通じて、時間外勤務を軽減する
- ・研修プログラムを開発する

◆調査研究の方法

- ・企業向け研修をベースにした研修プログラムを小学校で実施し、効果測定を行う

◆調査研究校

- ・大阪府松原市
- ・小学校2校（研究実施校と比較対象校）

◆現状

- 教員勤務実態調査（平成28年度）
 - ・すべての職種で勤務時間が増加
 - ・教諭の平均残業時間
小学校3時間30分、中学校3時間47分
 - ・従事時間の長い業務
授業（主担当）、授業準備、生徒指導（集団）
- 公立学校教職員の人事行政状況調査
 - ・精神疾患休職者の増加（5,077人）

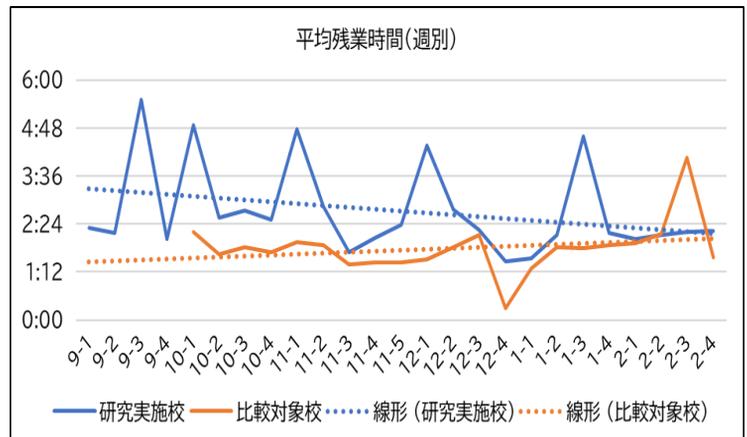
取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①ポイントA（業務スタイルの見直し）
 - ・マルチタスクをシングルタスクへ
 - ・業務の優先順位の作成
 - ・業務に係る集中時間の確保
- ②ポイントB（個人業務を組織業務へ）
 - ・個々の業務の見える化
 - ・対応が困難な業務への早期支援
- ③ポイントC（道具等の導入）
 - ・WIPボード（まほうのノート）
 - ・集中タイム
 - ・お助けボード

◆成果

- ・学校全体での残業時間が軽減された
（時間差で約45分、率で約35%削減〔令和元年9月と令和2年2月比較〕）
- ・教職員の意識が変革され、職場環境に変化が出た
（一つの業務に集中する、他者の業務を理解する、互いに支援する など）



今後の課題

◆「働き方改革」の支援

- ・研修実施校、比較対象校における効果測定と研修の継続
- ・改善した研修プログラムの他校での実施